

Ⅱ 現状と課題

1 自然環境

本町は北海道の北東部、網走管内のほぼ中央、内陸側に位置しています。

北は紋別市、滝上町、東は湧別町、佐呂間町、西は上川支庁管内上川町、南は北見市と接しており、東西 47 km、南北 46 kmにわたる総面積 1,332.32 km²の森林に囲まれたまちです。総面積の約 80%は国有林であり、大雪山系の北を源流とし、まちを貫流する湧別川は、大小さまざまな支流が合流し、オホーツク海へと注いでいます。また、これらの広大な森林と澄んだ清流には、絶滅危惧種を含め、希少な動植物がたくさん生息していますが、生態系や生息環境等の変化によりその数は減少傾向にあります。

気候は、亜寒帯低温乾燥地帯に属していますが、まちの北東部が湧別沿岸から 20 kmしか離れていないため、オホーツク海型気候の地域と南西部は内陸型気候で寒暖の差が激しい特色を持ち合わせています。気温は夏 30℃超、冬-30℃近くまでなることもあります。梅雨や台風の影響を受けることが少なく、比較的温和な地域です。

2 社会環境

本町の土地利用を地目別にみると、山林が約 90%を占めているのが特徴で、環境施策にとって重要なポイントとなるところであります。また、その多くが国有林であることも特徴といえます。その他は、畑が約 5%、宅地が約 0.5%となっています。

人口は平成 17 年 10 月の合併時には 23,965 人でしたが平成 21 年 10 月には 22,762 人と 4 年で 1,203 人減少しており、平成 28 年度には 20,176 人と現在より 2,586 人の減少を見込んでいます。さらに、少子高齢化の進行に伴い、現在の高齢者人口割合が約 28%ではありますが、平成 28 年度には 35.6%、年少人口は約 13%から 10.8%に変化する見込みであります。

(人口推計は、第 1 次遠軽町総合計画より引用)

3 生活（経済）環境

本町におけるごみ処理の状況は、比較的早くから再資源化のための資源物の分別収集と、燃やすごみ・燃やさないごみ・粗大ごみなどの有料化の取り組みが行われ、ごみの排出抑制と再資源化が推進されてきました。また、あわせて排出削減と自家処理を進めるため、生ごみ処理機導入助成やリサイクル推進事業に対する支援などに取り組んでいます。近年、これらの取り組みにより、ごみの排出量は減少傾向にあります。循環型社会をさらに推進するためには、より一層の排出量の抑制、再利用、再資源化を進めるシステムづくりが必要です。

生活排水の処理については、河川等の水質保全の観点からも重要な対策であります。下水道への接続状況は、供用区域内で87%となっており、今後も普及促進を図らなければなりません。また、供用区域外における個別排水処理施設整備等の普及に向けて引き続き対策をする必要があります。

本町の基幹産業は農業ですが、近年の農業を取り巻く状況は、農畜産物の輸入拡大による市場価格の低迷、資材の高騰による生産コスト増加、後継者不足など厳しい状況に置かれています。また、総面積の約90%を占める森林を活用した林業についても、輸入材との競合、後継者不足など農業同様厳しい状況が続いています。

商工業については、地場資源を活用した製品の製造・販売を中心に進められてきましたが、輸入品との競争の激化や製品価格の低迷から、地場産業の減少は著しく、また、消費の低迷、郊外店や近隣都市の大型店への消費者流出により商工業を取り巻く環境も厳しい状況にあります。

観光については、温泉施設やキャンプ場などの観光客を迎える施設のほか、自然環境に恵まれた多様な観光資源があります。また、イベントの実施などにより交流人口の増加に努めていますが、最近の観光形態であります「体験、滞在する観光」に対応し、地域の自然環境を生かした観光資源の魅力を高めることが必要です。さらに、広域的、産官民の連携を図り広域観光や観光情報発信に努めなければなりません。

4 町民・事業者及び町との協働

良好な環境を守り育てていくためには、町民の日常生活や各種団体等の環境保全活動、事業者の事業活動及び行政の普及啓蒙や情報の公開・提供など、共通認識のもとで環境に配慮した行動を起こすことが不可欠です。

また、それぞれの立場で行う活動が効率よく行われ、最大限の効果を生み出すには、情報を共有しながら対等な立場の中で、町民・事業者及び町の三者の協働による取り組みが必要です。